落語家さんにインタビュー！！

みなさん、こんにちは。自立生活センター・ナビの山下です。
画期的な落語独演会を紹介します。（インタビューさせていただいのは、独演会の 2日前です。）
様々な取材・原稿執筆・冊子編集をされている、まっすぐプランニング合田　享史（ごうだ　たかし）さんから目で聴く落語　笑福亭　學光（しょうふくてい　がっこ）独演会を紹介していただき、この企画を主催された笑福亭學光さん、合田さん、お笑い福祉士の加藤さん（中途失聴者・芸名：是巣亭朧留）にインタビューさせていただきました。

學光さんや加藤さんがお話ししてくれた中で印象的だったことを紹介します。

【落語家になるきっかけ】

地元・徳島県の銀行を辞めて大阪に来て落語に出会ったことです。大阪の上方落語を見て、落語家になりたいなと思うようになりました。銀行員から落語家という 180°違う世界に入ったんですが、どちらも「こうざ（口座・高座）」を大事にします（笑）

※學光さんは≪お笑い福祉士もされています≫

【お笑い福祉士の活動をしてよかったこと】

これまで介護施設や障害者施設に訪問してきました。お笑い福祉士は、様々な考え方がある方たちの集まりなんですね。目的は人に楽しんでもらうこと、笑ってもらうために少しでも社会の役に立ちたいという方が集まったグループでもあります。私も少しでもお役に立てたらなと思っています

☆お笑い福祉士とは☆

笑福亭學光さんが個人で認定している資格
全国各地の福祉施設などを訪問して、落語や手品、腹話術などで笑いを届けるボランティア芸人の称号。　創設20年目。全国約600人在籍

笑福亭學光さん

【要約筆記やＡＩを使って独演会を開催しようと思った経緯】

目で聴く落語は、聴覚障害者が落語を楽しめるように要約筆記やＡＩを使い情報保障をするというものです。加藤さん（86歳）が全く聞こえなくなったけど「繋昌亭へ行きたい。」と、いつも言っていたので、加藤さんのために今回の落語会を開こうと思ったのがきっかけでした。合田さんの紹介で、いろんな人に来ていただけることになりました。

加藤さん　合田　享史さん

【要約筆記やＡＩでの落語は試みが初めて？】

あべのベルタで試験的にＡＩを使って3～4回やりました。きっちりした落語会でやるのは今回が初めてです。落語は喋った時の「間（ま)」で笑ってくれるので、文字が出ることによってそのタイミングが、ずれたりすると笑いにならないのではという心配がありますが、今回はあえて、１つの壁ではなくて、乗り越えるべきものと思ってやります。

映画には字幕がついてるので落語にも字幕がついても、いい時代になってくるのではないかと思う１つのきっかけですね。

今回、要約筆記は大阪府中途失聴・難聴者協会のみなさん、ＡＩはチームＷ（ウエスト）研修センターの方に協力いただきました。

【今回のような取り組みを広げていくためには】

他の落語家にも、こういうやり方があると知ってもらいたいし、字幕付きの落語をいろんな場所でやってほしい。(學光さん)

文字で表示してくれると落語を観やすい。どんどん、要約筆記やＡＩが広まってほしいです。テレビなどで♪太鼓の音と字幕で表示されていることがありますが、太鼓の音などを振動などで表現できるようになると、もっとリアルに落語を楽しめると思います。(加藤さん)

【インタビューを終えて　そして、実際に落語を観た感想】

學光さん、合田さん、加藤さん　いろいろな話を聞かせていただきありがとうございました。

私は、テレビで時々、落語を観るぐらいでした。落語を実際に観るのは、おそらく初めて。落語特有の「間（ま)」の取り方が面白かったです。当日、要約筆記やＡＩを準備している段階から見学させていただきました。準備の様子を拝見し、學光さんはじめみなさん、試行錯誤しながらも「伝えたい！」という熱意が伝わってきました。今後、誰でも、落語を楽しめる機会が増えると良いなと思いました。

今回、學光さんと合田さん、加藤さんに取材させていただいた内容や「目で聴く落語　笑福亭學光独演会」を観に行った詳細な報告は、ちゅうぶ通信や機関誌ナビゲーションに掲載予定です。

ちゅうぶには文字通訳システムがあるので、今後は、ちゅうぶで學光さんの落語を聴く「ちゅうぶ寄席」（仮称）を必ず企画していきたいと考えています。

独演会が始まる前に許可を得て撮影させていただきました。